

タバコの売り上げは、私たちの生活を支える財源として経済活動に組み込まれている事は何度か紹介しましたね。左図はそんなタバコの年ごとの販売数量(折れ線グラフ)とたばこ税(棒グラフ)の推移を示しています。

販売数量は年々減少しているのに、たばこ税はほぼ毎年2兆円を超えています。これは販売数が減った分、税率を上げて税収を安定的に確保しているからです。だから、タバコの値段が年々高くなっているわけです。

ところで、タバコが売れると国全体として毎年約2兆円の税収が入るのですが、一方でタバコの

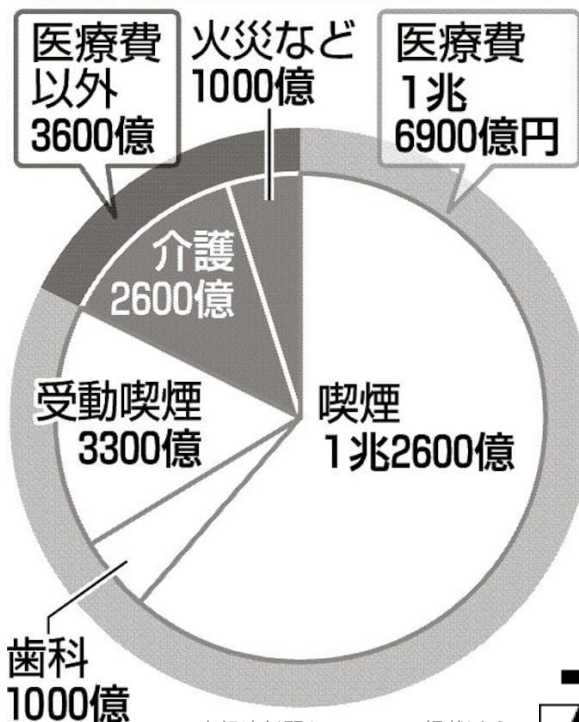
健康被害も大きくなります。タバコが原因で発病し治療を受ける人が多くなると、当然その医療費が増加します。厚生労働省の研究班によると2015年度には左図のようにその医療費が1兆6900億円と推計されており、そのために生じた介護費用や火災などの医療費以外の費用を合わせると総額で2兆500億円もの損失となっています。

そこでもう一度、上のグラフを見て下さい。2015年度の税収は2兆1900億円となっています。つまり、たばこ税で得た収入のほぼ全額がタバコによる被害によって消えている計算になるのです。

一見、タバコの収益は大きいように思えますが、社会全体でみるとそうではない事を知っておいて下さい。

**たばこによる総損失額**

**計2兆500億円 [2015年度]**



日本経済新聞(2018/8/9掲載)から